

天声人語

桜田義孝五輪相であろう。汗を拭いながら、答弁書を読みながらの危なつかしい受け答えが続く。東京五輪の基本コンセプトを即答できない。1500億円と答えるべきところを「1500円」と言ってしまう▼しかし五輪相に選ばれた理由を問われた時には、自分の言葉できつぱり語っていた。「総理が適材適所と思つて選んだ。その選んでいた人に、立派に任務を果たすように、しつかり取り組んでいる」。えつ、働くのはもつばら総理のため？ 国民のためじゃなく？▼そういえば少し前、財務省の理財局長から似たような答弁があった。「公務員として、お仕えした方に一生懸命お仕えすることが仕事だ」。ここでも目が向く先は国民ではなく、大臣など上司のようだ▼自分たちは国民に奉仕する公僕である。そんなことは桜田さんも役人のみなさんもご存じのはずだ。建前としては。それが建前とどまり、信念や原則になつていながら、とつさの時に口から出てこないだけなのだろう▼体に染みついたのはむしろ「忠誠」の方か。かつて武士たちに求められた倫理が思い起される。「君、君たらずとも、臣、臣たらざるべからず」。主君が立派でなくとも、家臣は忠誠心を持たねばならない。絶対服従の教えである▼臣下としての資質は、しつかりお持ちの方が多い。そんなふうに思えてしまうのが、昨今の永田町・霞が関である。重責を担う資質があるかどうかは、また別の問題だ。

2018・11・11